

10月例会案内

「浅川地下壕の保存をすすめる会」と共催

講演 ガイドブック「八王子の戦跡」の出版の思いと内容

「今だからこそ小中学生向けに散歩を」と呼びかけ

日時 10月17日(土)午後1時30分～3時**講師** 齋藤勉さん(浅川地下壕の保存をすすめる会事務局長)**場所** 浅川市民センター JR高尾駅南口から徒歩10分

戦後75年の節目に合わせ、小中学生に空襲の痕跡や戦死した兵士の墓碑など八王子の戦跡を紹介する「ガイドブック 八王子の戦跡」が出版された。

コロナの流行が深刻化した3月から4月にかけて戦跡を取材したが、緊急事態宣言も出され、「戦後75年の節目なのに、多くの式典が中止になるかもしれない」と危機感を抱いたという。子どもたちが戦争を学ぶ機会が失われかねないからだ。「ガイドブックをなんとしても出版したい」と意を決し、「三密」に気を付けながら、一日10か所ほどめぐったこともあったという。

こうした思いに、知人の建築家や元市議ら八王子の市民も共感してくれた。戦跡が残る寺の住職を紹介され、戦争の為に徴用された馬を供養する観音像のあることも教えてもらった。「知り合いのはんこ屋さんは、碑文に書かれた篆書の^{せんしつ}解読を手伝ってくれました。」と、仲間の協力に感謝の言葉を述べている。

ガイドブックは、今月1日に「浅川地下壕の保存をすすめる会」事務局長の齋藤勉さんと運営委員の井上健さんの監修で出版された。B5版で120ページ。こども達が手にして回れるよう、地図や用語解説、八王子市と戦争との関わりを記した年表も掲載した。

紹介されているものは、明治時代に陸軍大将乃木希典が揮毫した「表忠碑」から5年前に建立された戦没者慰霊の供養塔まで、市内75か所の約120点。JR高尾駅構内に残る米軍戦闘機による機銃掃射の銃弾痕なども掲載した。齋藤さんが現地を訪れて写真を撮影し、国立市や昭島市の歴史資料室や図書館で、当時の新聞や資料を確認したものだという。

当日は、齋藤さんと井上さんがパワーポイントを使いながら説明し、後懇談会となります。会議室は定員12名のため、オーバーした場合は、①廊下で聞いていただく②中の人と入れ替わってもらう③ベランダから聞いていただく…となります。

